



イエスタデイ

10月27日の衆議院選挙の結果、少数与党となった自公連立内閣の石破茂首相は、所信表明演説の冒頭で1957年の石橋湛山内閣の施政方針演説を引用し、(石橋氏は戦前の「日本の拡張主義」を批判し「小日本主義」を唱えていた)合意形成に努める姿勢を強調しました。実際、「数の力」を失った少数与党下の今国会では、野党の理解なしには予算案や法案を成立させられず、内閣不信任決議案を否決できる保証もない現実、「小日本主義」が示す「ウィン・ウィン」の理念(「一方が得して一方が損する外交は長続きしない」)を、国会運営でも実践したいとの思いが表れているようでした。



野球の国際大会「第3回 WBSC プレミア 12」の決勝では、「侍ジャパン」は台湾に敗れ、2連覇を逃しました。現役メジャーリーガーが出場する「WBC」と違い、世界野球ソフトボール連盟(WBSC)が主催するプレミア12は国内での注目度はそこまで高くないとみられていましたが、決勝は4万人以上の観客が熱戦を見守り、テレビも高視聴率をマークしたようです。野球は五輪の正式競技から外れ(かろうじて、次回のロス五輪では米国優位の競技種目として復活したようですが)、北中南米と豪州、東アジアを除けば世界での普及は道半ば。経済や外交の国際競争力では日本の存在感は残念ながら低下する一方ですが、それでも“野球力”では世界を牽引する立場にあることを確認できた気がします。

MLBや大相撲九州場所も終わって、スポーツ中継番組が少なくなった先日、貯め録していたイギリス映画「イエスタデイ」(NHK・BS放送「ザ・ビートルズ」の名曲の数々に乗せて描くコメディドラマ)を鑑賞しました。全く売れないシンガーソングライターは、世界規模の瞬間的な停電下の交通事故で昏睡状態に陥ってしまう。目を覚ますとそこは、史上最も有名なはずのバンド「ザ・ビートルズ」が存在しない世界になっていた。彼らの名曲を覚えているのは世界でただひとり…、戸惑いながらも、彼らの名曲を口ずさんでみる……。ビートルズがない世界では、どういうことが起こるのか。「イエスタデイ」など超有名曲を歌うと…、周りの友人たちは雷に打たれたような表情で、「何その歌? 素敵な曲ね」「ビートルズだって? 誰だよ」全員、ビートルズを知らないのだ…。「The Beatles」とGoogleで検索すると…表示されるのは「甲虫 (beetle)」のWikipedia記事。…それではと、「レット・イット・ビー」「抱きしめたい」「イン・マイ・ライフ」などを、自分の曲としてライブ



で歌う。…あれよあれよと世界中で人気が発見し、周りは“彼の才能”に完全降伏。…歌詞とメロディを必死に思い出しながら、“ビートルズを知らない世界”に楽曲を発表し続けるのだった。

この“人間ドラマ”はどこまでも懐が深く、受け取るメッセージやテーマは鑑賞者によって大きく異なるはずですが、例えば「実力以上に評価されてしまうことの苦悩」であったり、「人は何を拠り所に生きるべきか」であったりとさまざまです。どう感じたのか、パートナーや友だちと語り合うことも、作品の一部であるとさえ思えてくる秀作でありました。

